®環境省

エコアクション21

認証番号 0006956

環境経営レポート

対象期間：2022年9月1日～2023年8月31日

作成日：2023年10月30日

廣間組有限会社

目 次

目次	p.1
ご挨拶	p.2
環境経営方針	p.3
会社概要	p.4
環境経営システム実施体制図	p.5
環境経営目標（中長期目標）とその実績	p.6～p.7
環境経営活動計画の内容・取組み結果の評価	p.8～p.14
山櫻プロジェクト 生物多様性・低炭素化社会・循環型社会への挑戦	p.15
コミュニケーション及び防災・教育	p.16
次年度環境経営活動計画表	p.17
環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	p.18
代表者による全体評価と見直し結果	p.19

ご挨拶

弊社廣間組有限会社は、徳島県南部の那賀川上流に位置する那賀町木頭（旧木頭村）に所在しております。木頭は徳島と高知の県境でもあり、四季折々の自然環境に恵まれたとても美しい所で、全国に誇る歴史と様々な伝統が残っています。廣間組は、ここ木頭で創業より公共土木工事に携わり、林道開設や予防治山、国道整備や災害復旧など、地域のライフラインを担う大変重要な仕事をさせて頂いておりましたが、近年の不景気の波は等しく訪れました。

「このままではいけない、何かを変えなければならない」

そのような思いの中、これまで私たちを育んでくれた人や地域を見るにつれ、自然豊かなこの地で生きる私たちだからこそ、できる事は何か、やらなければならない事は何かを考えるようになりました。そのような中、EA21地域事務局のグリーン化プログラムに参加した事がきっかけで、エコアクション２１の『環境経営』という考え方に強く共感を覚えました。そしてこの『環境経営』こそが、今後の廣間組、建設業界、さらには地域の大きな魅力になると考え、平成２３年５月の認証・登録から今日まで環境経営を推進して参りました。その結果、第17回、第19回、第20回、第21回の環境コミュニケーション大賞において、全国に名だたる優良企業の皆様とともに、『環境活動レポート部門優秀賞』、『優良賞』を受賞し、部門の名称が変更になった第22回、第24回では『環境経営レポート部門優良賞』を受賞することができました。

「山櫻プロジェクトの立ち上げ」

また、エコアクション２１において三大テーマともいえる（生物多様性）（低炭素化社会）（循環型社会）の実現をさらに推進させていくため、平成２７年度から『山櫻プロジェクト』という新規事業を立ち上げ、日本古来のサクラである山櫻の保全活動を開始しました。町内外・老若男女問わず沢山の方とともに活動を行ってきた結果、令和2年には日本さくらの会から『さくら功労者』に選出されました。

「地域社会に必要とされる企業へ」

弊社は地方の一中小企業に過ぎませんが、企業の大小や活動の大小に捉われず、出来る事や小さな事からコツコツと、活動を継続し発展させていく事が地方企業の環境経営において最も大切な事であると考えております。今後も増税や物価上昇など、企業を取り巻く社会全体の見通しは厳しいところではありますが、社員一丸となって環境経営に尽力し、地域の未来に必要とされる企業を目指す所存でございます。

以上簡単ではございますが、ご挨拶とかえさせて頂きます。

廣間組有限会社　代表取締役　西田 静男

環境経営方針

□ 基本理念 －philosophy－

廣間組有限会社は、当社の事業活動に伴う地球環境への負荷に対し正しい知識を備え、これを最大限に活かす意識と知恵を持って、主体的な削減活動に取り組み、持続可能な環境経営システムを構築する事で、生活環境や生物多様性の保全、地球環境との共生文化を次世代へ継承し、強く美しい日本社会の実現、さらには国際社会全体におりなす地球環境問題に貢献します。

□ 行動指針 －Standards of Conduct－

一. 私達は、常に基本理念に基づき行動し、基本方針に沿った事業活動を行います

二. 私達は、常に地域社会の一員である事を自覚し、一人々が責任を持った行動をします

三. 私達は、常に学び向上し、時代に通用する人材の育成と自己開発に努めます

四. 私達は、常に事業活動の改善を心掛け、より良い環境経営を目指します

五. 私達は、常に個人を尊重し、他者に敬意を払い、謙虚な姿勢で仕事に取り組みます

□ 基本方針 －basic policy－

1. 当社の事業活動及び製品・サービスに関わる地球環境への負荷と影響を常時認識し、社員全員で環境経営に取り組み、生活環境や生物多様性の保全、地球環境への負荷を削減する事に努めます。
2. 当社の事業活動及び製品・サービスに関わる環境関連の法令、徳島県条例、那賀町条例、その他法規を遵守します。
3. 当社の事業活動及び製品・サービスに関わる環境影響について、以下の項目を環境管理重点テーマとして掲げ、この削減及び低減に取り組みます。

①二酸化炭素排出量
（電力使用量、ガソリン、軽油、灯油等石油系燃料使用量の削減）
②水資源使用量（排水量）の削減
③廃棄物の削減及びリサイクルの推進
④事務所紙資源の削減及びリサイクルの推進
⑤事務所周辺の清掃及び地域貢献活動（ボランティア）の推進
⑥グリーン購入の推進
⑦環境配慮商品・サービスの提供並びに施工の推進
⑧ICT 施工の推進

上記の方針達成と環境経営活動を推進する為に、確固たるビジョンを含めた**V-PDCAサイクル**によるスパイラルアップを仕組み付け、激変する社会ニーズや地球環境に対し、柔軟かつ迅速に対応する事のできる環境経営システムを構築し、これを維持発展させ続けます。また、本環境方針は全従業員及び取引先に周知すると伴に環境経営レポート等で社外へも公表致します。

制定日:平成 22 年 8 月 31 日
改定日:平成 29 年 9 月 1 日

廣間組有限会社　代表取締役　西田 静男

会社概要

□ 名称及び代表者名

廣間組有限会社 代表取締役社長 西田 静男

□ 環境管理責任者及び担当者

【環境管理責任者】西田　靖人〔mail〕y-n@hiromagumi.co.jp
【環 境 事 務 局】松本　恭典〔mail〕woodhead@hiromagumi.co.jp

□ 事業内容

【特定建設業】土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、
水道施設工事業、しゅんせつ工事業、解体工事業
【一般建設業】建築工事業、管工事業
【運 送 事 業】一般貨物自動車運送事業

□ 事業規模

操　業	昭和33年11月22日	設　立	昭和47年 2月 2日
資本金	3500万円	完工高	34732万円
従業員数	22名	事業所床面積	70m2

□ 事業年度

令和４年９月～令和５年８月

当社は、産業廃棄物収集運搬業許可（有効期間：令和元年 12 月 20 日～令和 6 年 10 月 28 日）を有しているが、令和 4 年度分においては、この事業実績はありませんでした。この為、現状ではこの業については、EA21 認証・登録の対象外となっております。

□ 所 在 地

【本社事務所・本社営業所】
〒771-6402
徳島県那賀郡那賀町木頭出原字ｲｼﾉﾄ28-1
〔TEL〕0884-68-2320〔FAX〕0884-68-2014
〔mail〕hiromagumi@tk2.nmt.ne.jp
〔HP〕 http://www.hiromagumi.co.jp
〔facebook〕https://www.facebook.com/hiromagumi
〔Twitter〕https://twitter.com/Hiromagumi
〔Instagram〕https://www.instagram.com/hiromagumi/

【栩谷倉庫A】
〒771-6511　徳島県那賀町木頭折宇字栩谷78-6
【栩谷倉庫B】
〒771-6511　徳島県那賀町木頭折宇字栩谷51-2
【自動車車庫】
〒771-6511　徳島県那賀町木頭折宇字栩谷口2-1,4,5-1,5

環境経営システム実施体制図

役職	役割・責任・権限
社　長	・環境経営に関する統括責任 ・EMS の実施及び管理に必要な人、設備、費用、時間、技術者を用意 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標の設定を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施、環境経営レポートの承認
EA21 推進会議	・EA21 推進会議を開催し、管理・運営を行う ・内外部とのコミュニケーションを組織で共有し、EMS のスパイラルアップの定着化を推進 ・EA21 推進会議記録の作成と周知および保管、環境経営レポートの審議
環境管理責任者	・EMS を構築し、実施および管理を行う ・法規制等の要求事項登録簿を承認、及び遵守チェック ・環境活動実施計画書を承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告、環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・「環境関連法規等チェックリスト」の作成、及び遵守チェック ・環境経営目標・環境活動実施計画書原案の作成 ・環境活動実施計画の実績集計、環境経営レポートの作成 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
事務部 営業部 工事部	・自部門における EMS の実施 ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成及び テスト・訓練・記録 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境経営目標＜中長期目標＞

事務所							
項　　目	単 位	2020 年度 実 績 基 準 値	2022 年度 目 標 (1.0%削減)	2023 年度 目 標 (1.5%削減)	2024 年度 目 標 (2.0%削減)	2025 年度 目 標 (2.5%削減)	2026 年度 目 標 (3.0%削減)
1.二酸化炭素排出の削減	kg-CO2/年	10130.6	10029.3	9978.6	9928.0	9877.3	9826.7
2.燃料使用量の削減	L/年	2525.6	2500.3	2487.7	2475.1	2462.5	2449.8
3.電力使用量の削減	KWh/年	7843.0	7764.6	7725.4	7686.1	7646.9	7607.7
4.水資源使用量の削減	m3/年	243.0	240.6	239.4	238.1	236.9	235.7
5.一般廃棄物の削減	kg/年	60.0	59.4	59.1	58.8	58.5	58.2
6.事務所紙使用量の削減	枚/年	46088.0	45627.1	45396.7	45166.2	44935.8	44705.4
7.事務所周辺の清掃及び地域貢献活動の推進	回/年	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
8.環境配慮商品並びにサービス提供の推進	件/年	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0

現　場							
項　　目	単 位	2020 年度 実 績 基 準 値	2022 年度 目 標 (1.0%削減)	2023 年度 目 標 (1.5%削減)	2024 年度 目 標 (2.0%削減)	2025 年度 目 標 (2.5%削減)	2026 年度 目 標 (3.0%削減)
1.二酸化炭素排出の削減	kg-CO2/年	264945.2	262295.8	260971.0	259646.3	258321.6	256996.9
2.燃料使用量の削減	L/年	104210.7	103168.6	102647.5	102126.5	101605.4	101084.4
3.産業廃棄物の削減（リサイクル率の向上）	%/年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
4.事務所周辺の清掃等社会貢献活動の推進	回/年	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
5.環境配慮製品・サービス提供並びに施工の推進	件/年	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
6.ICT 施工の推進	件/年	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0

※事務所の項目（1～6）、現場の項目(1,2)については 2020 年度の実績を基準とし、0.5%ずつの削減を目標とする。
※電力の二酸化炭素排出係数として四国電力(平成 29 年度)の調整後排出係数 0.535kg-CO2/kWh を使用。
※ 現場は、電気および水（上水）の使用、文具の調達なし。

環境経営目標とその実績＜2022 年 9 月～2023 年 8 月＞

	事務所項目	単位	2020 年度 実績 基準値	2022 年度 目標 (1.0%削減)	2022 年度 実績	2022 年度 達成率
1	二酸化炭素排出の削減	kg-CO2/年	10130.6	10029.3	12303.81	81.5
2	燃料使用量の削減	L/年	2525.6	2500.3	3417.0	73.2
3	電力使用量の削減	KWh/年	7843.0	7764.6	7979.0	97.3
4	水資源使用量の削減	m3/年	243.0	240.6	156.0	154.2
5	一般廃棄物の削減	kg/年	60.0	59.4	28.0	212.1
6	事務所紙使用量の削減	枚/年	46088.0	45627.1	29812.0	153.0
7	事務所周辺の清掃及び地域貢献活動の推進	回/年	50.0	50.0	60	120.0
8	環境配慮商品並びにサービス提供の推進	件/年	12.0	12.0	12.0	100.0

	現場項目	単位	2020 年度 実績 基準値	2022 年度 目標 (1.0%削減)	2022 年度 実績	2022 年度 達成率
1	二酸化炭素排出の削減	kg-CO2/年	264945.2	262295.8	212305.8	123.5
2	燃料使用量の削減	L /年	104210.7	103168.6	83630.8	123.4
3	産業廃棄物の削減（リサイクル率の向上）	%/年	100.0	100.0	100	100.0
4	事務所周辺の清掃等社会貢献活動の推進	回/年	50.0	50.0	60	120.0
5	環境配慮製品・サービス提供並びに施工の推進	件/年	12.0	12.0	12	100.0
6	ICT 施工の推進	件/年	12.0	12.0	12	100.0

【評価・総括】

現場は全項目で目標を達成できた。事務所は 1，2，3 の項目で目標を達成できなかったが、4，5，6 については前年度比で大きく上回る結果となった。次年度は 1，2，3 の目標値を達成できるよう特に力を入れていきたい。

環境経営活動計画の内容
取組結果の評価

～1.二酸化炭素排出の削減～

■事務所

kg-CO2/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	10029.3	12303.8	81.5
重要テーマ			
電力使用量の削減			
燃料使用量の削減			

【評価・次年度の取組】
目標に至らなかった。ガソリンの使用としては、現場への通勤で使用する部分が多く、今期は遠距離現場が多かった事が考えられる。また、冬場の電気使用量が多かった。次年度はウォームビズを徹底し電力削減を中心に取り組んでいきたい。

■現場

kg-CO2/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	262295.8	212305.8	123.5
重要テーマ			
燃料使用量の削減			
ICT 施工の推進			

【評価・次年度の取組】
今年度は大幅に目標を達成できた。売上高が前年度より減っていることもあるが、この達成率の高さは適切な外注の活用と ICT 施工の推進を積極的に取り入れた事が大きな要因と考えられる。
引き続き、次年度も燃料削減と ICT 施工の推進を中心に取り組んでいきたい。

環境経営活動計画の内容
取組結果の評価

～🔥2.燃料使用量の削減～

■事務所

L/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	2500.3	3417.0	73.2
主な活動内容			
通勤車輌の日常点検			
エコドライブ１０の実施			

【評価・次年度の取組】
今年度も目標に至らなかった。出勤日数に比例して使用量も増加する傾向である。コロナが５類感染症に移行したため会議や講習が対面形式に戻ってきたが、できるだけオンライン形式で参加をして燃料使用量の削減をしていきたい。

■現場

L/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	103168.6	83630.8	123.4
主な活動内容			
重機車輌の日常点検			
エコドライブ１０の実施			
低騒音・排出ガス対策車の使用			

【評価・次年度の取組】
今年度は目標を大幅に達成できた。現場は、ダンプで運搬作業を要する月が増加する傾向である。6 月に油圧ショベルを買い替えた。今後も適切な運搬計画や適切な機械の選定、使用方法を行い、削減に取り組んでいきたい。

環境経営活動計画の内容
取組結果の評価

～ 3.電力使用量の削減～

■事務所

KWh/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	7764.6	7979.0	97.3
主な活動内容			
OA 機器の節電啓発			
事務所の間引き点灯を行う			
エアコンの温度設定（冷房 28℃、暖房 20℃）			

エアコンを新調→

コードレス掃除機に新調→

【評価・次年度の取組】
目標を達成できなかった。事務所の電力使用は特に冬場に多く使用されている。3 月にコードレス掃除機を新調し、6 月にまだ交換していなかったエアコン 1 台を新調した。次年度には効果が表れると期待している。

～ 4.水資源使用量の削減～

■事務所

m3/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	240.6	156.0	154.2
主な活動内容			
水量調節ホースの使用			
散水タイマーの使用			
節水啓発ポスターを提示する			

節水啓発ポスター

水量調節ホース使用

洋式トイレ

散水タイマーによる水やり

【評価・次年度の取組】
大幅に目標を達成できた。山櫻プロジェクトの苗木の水やりで夏場に多く使用する傾向であるが、今年度は 12 月と 2 月にも多く使用している。ダンプ運送業務が多かった時期と重なるため、次年度は洗車用ホースを見直したい。

環境経営活動計画の内容
取組結果の評価

～♻5.廃棄物の削減（一般廃棄物）～

■事務所

kg/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	59.4	28.0	212.1
主な活動内容			
封筒・段ボールの再利用			
ゴミ箱（マイボックス）を設置しゴミを持ち帰る			
分別・啓発			

← 各自の出したゴミを持ち帰るマイボックスの設置

【評価・次年度の取組】
大幅に目標を達成できた。前年度同様に、マイボックスの設置による各自のゴミの持ち帰りを徹底したほか、事務用品等を購入する際はまとめ買いをする事で、段ボールの発生を抑制できた。次年度も継続して取り組んでいきたい。

～♻5. 廃棄物の削減（産業廃棄物）～

■現場

%/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	100.0	100.0	100.0
主な活動内容			
廃棄物を同一種類でまとめて処理する			
リサイクル可能な処理業者を選定する			
廃棄物は可能な限り再生利用			

【評価・次年度の取組】
今年度も可能な限り産業廃棄物を削減し目標を達成できた。産業廃棄物の種類としては、主に鉄くず、根株、コンクリートガラであり、根株はチップに、鉄くずとコンクリートガラは再生材として再利用されている。次年度も継続して取り組んでいきたい。

環境経営活動計画の内容
取組結果の評価

～6.事務所紙使用量の削減～

■事務所

枚/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	45627.1	29812.0	153.0
主な活動内容			
裏紙利用の励行			
サーバーやスマホを活用し配布資料を削減する			
節紙啓発ポスターを掲示する			

節紙啓発

裏紙利用

【評価・次年度の取組】
今年度は大幅に目標を達成できた。工事件数が減ったこともあるが、新たに経理ソフトをクラウド対応のものに変え給料明細を配信化したり、メールや電子納品などできるだけ紙使用量を減らすように心がけた。次年度も継続して取り組んでいきたい。

～7. ICT 施工の推進～

■現場

件/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	12.0	12.0	100.0
主な活動内容			
設計時に、可能な限り ICT 技術を活用した機械や施工方法を提案する			
施工時に、可能な限り ICT 技術を活用した機械や施工方法を提案または施工する			

【評価・次年度の取組】
今年度も可能な限り ICT 施工を推進し目標を達成できた。主に起工・出来形測量でのドローン使用と、土砂の取り除きに使用する重機に ICT 技術を採用している。次年度はドローン使用をさらに進めて、目標を達成できるよう継続して取り組んでいきたい。

環境経営活動計画の内容
取組結果の評価

～ 8.事務所周辺の清掃活動
及び　地域貢献活動の推進～

■事務所

回/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	50.0	60.0	120.0
主な活動内容			
土木の日（11/18）に合わせ、地元図書館で土木関係パネルの展示			
地元学校環境教育(森林保全への理解・木工体験)の実施			

土木の日パネル展

地元学校環境教育

【評価・次年度の取組】
今年度は 1 年ぶりに地元学校での箸作りを再開することが出来た。また、図書館での土木パネル展では地域の方々との交流もあり、意義のあるイベントとなった。次年度も継続して取り組んでいきたい。

■現場

回/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	50.0	60.0	120.0
主な活動内容			
ロードアドプト事業を年 2 回実施（延べ 13 名以上参加）			
道路・林道の維持管理			

ロードアドプト

除雪作業

道路・林道維持活動

【評価・次年度の取組】
週 1 回現場周辺の清掃活動と年 2 回のロードアドプトを実施し目標を達成できた。今年度は 1,2 月の大雪や 6 月の梅雨前線と台風による大雨の影響で維持修繕活動が多かった。次年度も安全第一に地域住民のライフラインを守る維持管理を行いたい。また、アドプト事業への参加延べ人数もできるだけ増やしていきたい。

環境経営活動計画の内容
取組結果の評価

～9. 環境配慮商品並びにサービス提供の推進～

■事務所

件/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	12.0	12.0	100.0
主な活動内容			
文具及び材料の調達に際しエコラベル商品を優先購入し使用する			
那賀町ふるさと納税への商品提供			
山櫻プロジェクトの推進			

ラベルレスボトル

紙製クリアファイル

那賀町ふるさと納税の山櫻五稜箸

【評価・次年度の取組】
今年度も、文具調達の際はエコラベル商品を優先購入するなど、可能な限り環境配慮商品並びにサービス提供を推進する事ができた。現場の熱中症対策のため、ラベルレスボトルの飲料水を購入した。次年度も継続して取り組んでいきたい。

～10. 環境配慮商品・サービスの提供並びに施工の推進～

■現場

件/年	目　標	実　績	達成率
総　　量	12.0	12.0	100.0
主な活動内容			
工事使用材料に際し、可能な限り環境に配慮した材料を使用する			
施工に際し、可能な限り環境に配慮した機械の選定や施工方法で行う			

県産木材型枠（グリーンパネル）

【評価・次年度の取組】
今年度も、現場では環境に配慮した材料使用と、機械の選定、施工方法を行い、可能な限り環境配慮商品・サービスの提供、並びに施工の推進する事ができた。次年度も継続して取り組んでいきたい。

山櫻プロジェクト

生物多様性・低炭素化社会・循環型社会への挑戦

山櫻プロジェクトとは

里山の原風景を彩るサクラ。春になればその美しい花色と味わい深い立ち姿で、私たちの目と心を楽しませてくれます。その中でも、とりわけ私たち日本人と馴染みの深いヤマザクラが、那賀町木頭においても近年減少傾向にあり、その存続を危惧されつつあります。私たちはこのヤマザクラを『山櫻』と称し、町内産山櫻の実生から育成した苗木を地域の林地等に植樹する事で、その保全と、CO2の吸収・固定を同時に図りながら、地域に山櫻の名所を誕生させていく活動を行っています。また、間伐や自然災害等で発生する倒木や古木の未利用材をお箸などの木工製品に加工し、売り上げの一部を植樹活動で使用する仕組みをとっております。さらに山櫻プロジェクトを架けはしとして、地域の様々な団体と共同活動を展開し、地域ネットワークの醸成と那賀町木頭地域の振興に寄与する事を目指しております。

山櫻のサクランボ

まるで宝石のような美しい山櫻のサクランボ。果肉を取って春になるまで保管し芽が出たものを専用のコンテナに植え替えます。

山櫻の苗木育成施設『ワンダーガーデン』

所在地の地名である和無田（わんだ）から命名したワンダーガーデン。山櫻をはじめ、広葉樹の苗木を常時1000本以上管理・育成しています。

植樹祭

木頭の杉山の皆伐跡地に、山櫻の苗木40本を植える植樹祭を開催しました。植樹祭には子どもから高齢者まで40名以上の方が参加し、コロナ対策と安全対策を徹底し、無事終える事ができました。2016年から少しずつ活動をはじめて、今では個人だけではなく、様々な団体や企業、また町外からも沢山の学生や有志の方々が参加下さるようになり、世代や地域を超えた大きな活動になりました。次年度も植樹祭を開催し、将来は山櫻が地域の大切な資源（共有財産）になるよう活動を推進していきたいと思います。

コミュニケーション

事務所にＥＡ２１コーナーを設営しています。環境経営レポートをはじめ、環境目標、方針、計画、活動状況など様々な情報を掲示・公開し、社員だけでなく誰でも閲覧や持ち帰りができるようにしています。また、内部コミュニケーションには、グループライン等のアプリも活用しています。

会社の HP と山櫻プロジェクトの HP のほか、Facebook、Instagram、Twitter、などの SNS も開設し外部コミュニケーションに活用しています。

http://www.hiromagumi.co.jp

http://www.hiromagumi.co.jp/yamazakuraprojectkai/index.html

防災・教育

防災訓練は、火災・油流出・地震発生訓練のほか、BCP に基づいた参集訓練等を行っています。

毎月の環境教育のほか、安全教育など、適時外部講師を招き実施しています。

事務所には BCP に基づいた、非常道具や非常食等を備えています。

次年度環境経営活動計画表

項目		取組事項	事務所	現場
二酸化炭素排出量の削減	□燃料使用量の削減	重機車輌・通勤車輌の日常点検	○	○
		エコドライブ１０の実施	○	○
		低騒音・排出ガス対策車の使用		○
		高燃費・低排出ガス車の使用	○	○
		車内温度の自然調節	○	○
	□電力使用量の削減	OA 機器の節電啓発	○	
		事務所の間引き点灯を行う	○	
		節電啓発ポスターを掲示する	○	
		エアコンの温度設定（冷房 28℃、暖房 20℃）	○	
水資源使用量の削減		雨水を利用し、節水を行う	○	
		水量調節ホース・タイマーの使用	○	
		節水啓発ポスターを提示する	○	
廃棄物の削減	□一般廃棄物の削減	封筒・段ボールの再利用	○	
		自分用のゴミ箱（マイボックス）を設置し、持ち帰りを実施する	○	
		分別・啓発	○	
	□産業廃棄物の削減	マニフェストの管理を徹底する	○	
		廃棄物を同一種類でまとめて処理する		○
		リサイクル可能な処理業者を選定する		○
		廃棄物は可能な限り再生利用		○
事務用紙使用量の削減		裏紙利用の励行	○	
		印刷前にプレビューを徹底し、プリントミス・配布資料の削減	○	
		節紙啓発ポスターを掲示する	○	
		サーバーやスマフォを活用し配布資料を削減する	○	
事務所周辺の清掃及び地域貢献活動の推進		週１回事務所・現場周辺の清掃をする	○	○
		道路・林道の維持管理		○
		ロードアドプト事業を年２回実施し延べ 13 名以上参加する	○	○
		地元学校への環境教育（森林保全への理解・木工体験）の実施	○	
環境配慮商品並びにサービス提供の推進		山櫻プロジェクトの推進	○	
		那賀町ふるさと納税への商品提供	○	
		文具及び材料の調達に際しエコラベル商品を優先して購入する	○	
		工事使用材料に際し、可能な限り環境に配慮した材料を使用する		○
		施工に際し、可能な限り環境に配慮した機械の選定や施工方法で行う		○
ICT 施工の推進		可能な限り ICT 技術を活用した機械や施工方法を提案する		○
		可能な限り ICT 技術を活用した機械や施工方法を提案または施工する		○

環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

※環境関連法規制等への違反はありません。また、関係当局より違反等の指摘は、過去３年間ありません。

適用される法規制	適用される項目	評価
■環境基本法	■自然環境の保全措置	○
■グリーン購入法	■環境物品購入	○
■地球温暖化対策推進に関する法律	■温室効果ガスの排出の抑制	○
■環境配慮事業促進法	■事業活動に係る環境情報の提供	○
■廃棄物の処理及び清掃に関する法律（産業廃棄物）	■委託契約、許可証の確認、マニフェストの保存義務	○
■廃棄物の処理及び清掃に関する法律（一般廃棄物）	■ゴミの分別排出。野外焼却の禁止	○
■建設リサイクル法	■分別解体、再資源化の促進	○
■特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	■特定家庭用機器の適正処分	○
■浄化槽法	■浄化槽の処理後でなければ公共用水域に排水禁止	○
■大気汚染防止法	■機関事に期日を守り、書類を届出。	○
■オフロード法	■基準適合機械の使用	○
■騒音規制法 ■振動規制法	■作業敷地境界(騒音)85db 以下(振動)75db 以下 （ただし作業時間、期間の規定あり）	○
■特記仕様書	■特記仕様書に準ずる。	○
■徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例 ■徳島県生活環境保全条例	■事業者は気候変動対策に関する取組みを積極的に行い、県が実施する気候変動対策に協力するよう努める。	○
■那賀町廃棄物の処理及び清掃に関する条例	■一般廃棄物の分別。	○
■那賀町景観条例	■良好な景観の形成に寄与・施策に協力	○
■フロン排出抑制法	■第一種特定製品の点検・整備	○

代表者による全体評価と見直し結果

対象	変更の有無	評 価・次年度方針
■環境方針	□有／■無	今後も環境方針を基軸に取組みを行う。しかし、目標はあくまで目標であり、達成できたとしても『常に今が最低』という意識で臨み取り組んでいかなければならない。また、数値目標だけにとらわれ過ぎず、『何の為にやっているのか』という本来の目的を見失わないよう、常に基本理念に立ち返り、より良い環境経営を目指していく。
■目標・計画	□有／■無	事務所は「二酸化炭素排出量」、「燃料使用量」、「電力使用量」の３項目を特に意識して活動を進めていく。
■その他	□有／■無	＜実施体制＞今期より、新入社員が２名入ったので、環境事務局と事務部に各１名サポートをつけて指導を行っていく。

【 総 括 】

現場は全項目において目標を達成できたが、事務所は「二酸化炭素排出量」、「燃料使用量」、「電力使用量」、の３項目で目標を達成できなかった。事務所はさらに取り組みと意識改革が必要である。次年度はセミナーやイベントへの参加、資格の所得など、社員意識の改革や教育面の向上を図り、より良い環境経営を目指していきたい。